

成年年齢引下げを見据えた環境整備に関する
関係府省庁連絡会議
成人式の時期や在り方等に関する分科会
(第3回)

第1 日 時 平成31年2月1日(金) 自 午後2時30分
至 午後4時00分

第2 場 所 民事局会議室

○**法務省民事局** 定刻になりましたので、成年年齢引下げを見据えた環境整備に関する関係府省庁連絡会議、成人式の時期や在り方等に関する分科会の第3回会議を開催いたします。

本日はお忙しい中、皆様に御出席賜りまして、どうもありがとうございます。本日もよろしくお願ひいたします。

本日の具体的な予定といたしましては、前回に引き続き、関係団体の方々からヒアリングを実施することとしておりまして、全日本美容業生活衛生同業組合連合会常務理事の二川哲男様、一般社団法人全国高等学校PTA連合会常務理事・事務局長でいらっしゃいます内田志づ子様にお越しいただいております。

まずは参考人からの意見聴取を行いまして、その後にとりまとめて、意見や質疑などを出席者の方々から承りたいというふうに思っております。それでは、早速でございますけれども、まず二川様から御意見をお願いいたします。

○**二川哲男参考人** 全日本美容組合連合会の二川と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

まず、成人式に関してどのような関わりがあるかということなんですけれども、私たち美容業界は、地域社会の日常生活に深く関わっている職業といたしまして、冠婚葬祭などの人生の節目に当たる部分も担当しており、成人式では着物の着付けを始め、ヘアスタイルやメイクアップ、ネイルアートなど、トータルなファッションに関わっております。

また、近年では、着物になじみの薄い母親の世代が多くなりまして、着物の選び方のポイントであったりコーディネート、あるいは着物を着た際の所作、身動きと申しますか、車の乗り降り、そういう場合のたもとや裾の扱い、さばきなどについてもアドバイスをし、また、成人式が終わった後の着物の手入れ等につきましてもアドバイスを行っております。

また、成人式に当たりましては、着物の帯結びというのは、毎年新しい帯結びの方法が発表されておりますので、そういった新趣の帯結び、あるいは新趣帯結びをアレンジした形などを提案しまして、新成人の個性を引き出すための勉強会にも積極的に取り組んでいるところなんです。

これまでも成人式におきましては、多くの女性が振り袖を着用し、男性に羽織はかまが近年増えているなど、伝統文化に、着物に親しむ、ふさわしい機会であるというふうに考えております。成人式の数か月前から、ヘアスタイル、あるいはメイク、帯結びの打合せ等に御来店されて、親子で相談をし合いながら、成人式を楽しみにしているという場面にも立ち合わせていただいております。

また、成人式を行うことの意義について、どのように考えるかという項目ですけれども、成人式は人生における大きな節目だというふうに考えています。この日を迎えるまでに、様々な形で支えてくれた御家族や周囲の皆様に感謝をし、そして、いわゆる大人としての社会に踏み出す責任を再認識する日で、社会もまた、大人としての門出を祝福する意味のある式典だと考えております。

子供の七五三に見られますように、日本人として着物を装うことは、成長を祝い、喜びを分かち合う儀式でもあります。

今日ヒアリングに出席するに当たりまして、全国の地方紙、あるいは新成人、御家族など

に向けたアンケートなども拝見いたしましたけれども、二十歳での式典を希望する声が多数を占めていたように感じました。

それから、3点目の成年年齢が引き下げられた後の成人式の対象年齢、時期等についてということですが、アンケート等に見られますように、18歳で成人式を行う場合、多くの方が高校在学中、大学入試あるいは就職の準備、あるいは、地方を出るとアパート探し、あるいはそのための生活備品の調達等で、時間的・経済的な余裕がないのではないかとこのように思います。

また、全国各地では、新成人になられる方が成人式の実行委員会のメンバーとなって、その準備に参画をして、自主性あるいは独自性のある式典が開催されていると聞いております。受験期にある高校生が、その実行委員を務めるという余裕はなく、新成人の皆様の意に沿わない形の式典になってくるおそれもあるのではないかとこのように考えております。

18歳成人というのは決定いたしましたけれども、私の地元・茨城で、元県の教育長を務めたお二人の方、あるいは現職の市長さんお二人、そして、自民党県連の幹部の方などとお話した折、いずれの方も、二十歳の式典が望ましいというふうなスタンスでいます。また、つくば市では、支援学級の仲間だけの成人式が行われて、新成人や御家族、あるいは関係者から大変喜んでいただいたという話も伺っています。

また、もし万一、2023年の成人式といいますか、18歳の式典が行われるとなれば、これもまた、18歳、19歳、20歳と、3年分の式典を同時に行うということになります。こうなりますと、着物業界では、言わば3年分の仕入れを行わなくてはいけなくて、翌年はそのリバウンドのような形で、過剰在庫を抱えたような形になってしまうのかなどこのようにも感じています。

この式典の時期につきましては、全国市町村の約85%が1月に開催しており、その他、残り15%ほどは、その土地土地の事情で違う月にやっているようですけれども、時期はこれまでどおり1月開催として、今まで違う季節にやっていたところ、自治体においては、これまでの経緯等を踏まえて、自治体あるいは実行委員会の判断に委ねられているのではないかとこのように感じています。

また、新聞等の記事を見ますと、二十歳の若者が成人式に地元へUターンしてくるということで、地元の経済的、あるいは高揚感といいますか、心理的な活性化を含め、大学生や社会人になって、社会の規範を理解して、飲酒、カジノ、そういったものも解禁となる二十歳での式典を希望したいというふうに思います。

以上でございます。

○法務省民事局 ありがとうございます。

引き続き、内田参考人からお願いします。

○内田志づ子参考人 私共は、一般社団法人全国高等学校PTA連合会という団体です。青少年の健全育成をPTA活動を通して実現しようとする団体として、今、会員数ですが、全国の50の都道府県・市、団体から成り立っております。そこで、学校数でいくと3,963校、生徒数220万人が加盟しております。主に公立高等学校が中心ですが、一部の県では私立高校も加入しております。また、中高一貫校も加入しております。

およそ3,963校ということで、今回、成人式に関しまして、どのような意義があるのかなんですけれども、文科省の地域学習推進課の方からも御指導がありまして、どんな項

目について聞いた方がいいかということを検討した結果、お手元の資料にありますように、主に成人式の意義についてということで、5項目に関して、全国の50の都道府県・市の連合会の高校PTA会長に回答していただきました。PTA会長ということで、その学校の主に中心となる保護者でして、よく考えて回答して下さったという印象を持っております。

アンケート結果を御覧いただければと思いますが、回答率は55%ということで、およそ加盟校の半数が、この短期間ですね、1か月の間に回答をしております。大阪、島根、山形辺りからは回答がなかったんですが、沖縄から北海道まで、ほぼ全都道府県のPTA会長が回答しております。

主に成人式に関して、どのような関わりがあるかと、PTA会長は高2か高3の保護者が多いんですが、高1の保護者もいますけれども、これから2年後あるいは3年後、4年後に成人式を迎える子供を持つ親という方を対象として回答を頂きました。

まず、成人式を行うことの意義について、どのように考えるかということで、最初の項目ですけれども、人生の節目として、将来について考える機会となる、大人になった自覚を促す、地元へのやはり愛着を育む、それから、地域を挙げて未来を担う新成人を励ますというふうに、地域密着と何らかのけじめというか、セレモニーをもって、大人の自覚を促す機会は作りたいという多くの回答、7割近くが、将来について考える機会、大人になった自覚を促す機会としたいというふうに回答しております。

当初、子供たちは同窓会や、そのようなことを期待しているという回答が出るのではないかなと思いましたが、大変真面目に親として何らかの形は付けてもらいたい、型どおりのことをやって、考える機会にしたいというのが大部分の意見です。

それと、成人式を行う主催者は誰がいいんでしょうかということで回答していただきましたが、やはり例年の流れで、地方公共団体、それから新成人中心の実行委員会形式でやってほしい、地域主体でやってほしいという意見がほとんどです。これは複数回答はありませんけれども、地方公共団体と新成人と一緒にやってほしいという意見が多いです。

それから、次に、成年年齢が18歳に引き下げられた場合、成人式の開催については、何歳の人を対象に実施するのがよいかということをお聞きしてみましたところ、やはり20歳で実施するという希望が半数を占めております。あと、成年年齢に合わせた18歳、19歳となっておりますが、今までどおり20歳に達したときにしてほしいという意見です。

成人式は、多く集わなければ意味がないということで、子供の成長のお祝いの行事というのは、親にとってはとても大事なことでありまして、それを祝うのは、特に実施時期にこだわるわけではないですけれども、やはり多くの新成人が集まったところで式を挙げてほしい。20歳が一番いいという意見です。

あと、成人式の対象年齢が、成年年齢に達した18歳で行った場合にどうかというと、正直言ってこれ、かなりの保護者がメリットはほとんどないと考えております。それは私も、高校生の70%が大学や専門学校へ18歳のときに進学します。残りは就職等ですが、18歳のこの時期は、何と云っても、今までどおりの1月にしたら、日本の大学は、共通テストがありますし、受験の時期です。成人式に、とても関心がいく状態ではないということです。それから、やはり親としては、子供に何らかの形で成人式の晴れ着を着せ

てあげたいというか、プレゼントしたいという思いがありますが、大学の受験時期になりますと、大学の入学準備金ということで、何十万円も用意しなくてははいけません。その上に更に晴れ着を用意するとなると、家庭の経済的負担が相当出てくる。18歳での成人式というのは、親にとっても子供にとっても、メリットが一つもないと考えております。

どうしても18歳でやるとなったら、いつがいいかといったら、1月、3月、4、5月、8月とか、ちょっと今考えつかない状態です。基本的には18歳で成人式はやりたくないという考えです。

最後にアンケート項目で、対象年齢を18歳とした場合、1月に実施すると、どのような効果、影響があると思うかということで、先ほど申し上げましたように、やはり効果がないわけではなくて、成年年齢と同じ時期に成人式をやることは、もちろん大切なことではあるんでしょうけれども、それをやはり多くの人と喜びを共有しながらやるということを考えた場合に、1月はとても厳しいという、参加できないだろうというアンケート結果が出ました。

あともう一つ、このアンケートが始まる前に、根底にあることですが、やはり民法の成年年齢引下げが18歳になったことに対しての、保護者としての戸惑いがあります。18歳成年年齢は早過ぎるのではないかということで、それは、この少子化の中で、子供を大切に育ててきましたが、自立心を育む、いろいろな社会の荒波の中に対応する教育を家庭の中でしてきたかという、その自信はまだ余りないという、できれば30歳成人式でもいいというような方もいまして、気持ちの成熟度からいくと18歳では大人としての責任感、自立をするという教育がまだ浸透していません。それが根底にありまして、やはり18歳で、いろいろな儀式をやるには早いのではないかなという考えです。

以上です。

○法務省民事局 ありがとうございます。参考人の方々からの意見聴取は以上です。

それでは、意見交換などに入る前に、お配りした資料についてご紹介いたします。今回、事前に公益財団法人日本財団の御了解を頂いて、日本財団が実施した成人式についての意識調査に関する資料を参考資料としてお配りしました。こちらについて、簡単に御紹介させていただきます。

これは、政府がお願いをした調査ではございませんで、日本財団の方で、若年者の方々に対する意識調査をやっておられたというもので、成人式がテーマになっていたものですから、この分科会においても、非常に参考になるだろうということで、お配りしたものです。

中身を御覧いただければお分かりになりますように、この調査は、17歳から19歳の男女、それぞれ400人ずつに対してインターネットを通じて調査を行ったものです。

それぞれの質問項目と結果を簡単に御紹介していきますと、まず5ページですけれども、成人式に出席したいかどうかにつきましては、全体で70.6%が出席したいと回答されております。この点については、女性の方が少し多目ではありますけれども、余り大きな差は見られないところです。

次に、6ページですけれども、出席したい理由を尋ねましたところ、同級生に会えるからという回答が66.4%でした。この点につきましても、余り男女では差がございません。

ただ、左から3番目、「着物・振り袖を着られるから」というような回答に限っていえば、全体でいいますと32.6%、3分の1程度ですが、女性が56.9%、男性が7.2%

ということで、女性の割合が非常に多いという特徴がございます。

それから、次の7ページにまいりまして、逆に、出席したくない理由を尋ねたものでございまして、同級生に会いたくないとか、成人を祝うことについて意味を感じないからといったことを挙げられております。

それから、続きまして、8ページにまいりまして、交付金行事としての成人式が必要かどうかにつきましては、全体でいいますと大体7割程度、出席意向も同様の結論が出ておりまして、この点につきましても、余り男女では差がありません。

それから、12ページに飛んできまして、何歳で成人式を行うのがふさわしいかという質問に対する回答ですけれども、大体74%、4分の3程度の方が、20歳がいいと回答されているようです。必ずしも理由は明らかではありませんが、男性と女性で少し差がございまして、男性の68%が20歳がいい、30%弱が18歳がいいという回答であるのに対して、女性の80%が20歳がいい、19%が18歳がいいという回答でございます。

その理由ですけれども、13ページを御覧いただきますと、20歳の方が良いという方は、やはり大きいのは、受験に重なる時期だからというような回答が62.8%ということで、一番多くなっております。飲酒や喫煙ができないという回答も4割弱ほど、また、金銭的な余裕がないというのが33.6%ほど挙げられているようです。

逆に、18歳の方がいいという方がどういう理由を挙げているかということですが、14ページになりますけれども、成年年齢が18歳に引き下げられましたので、それに合わせて18歳がふさわしいというのが63%程度、18歳で成人になるのに、成人式が違う年齢だと混乱するという理由が40%程度挙げられているようでございます。

以上でございます。

それでは、参考人から御意見を賜りまして、また日本財団のアンケート結果につきましても御紹介申し上げたところですので、意見交換に移ります。

私の方から口火を切るということで、本日お越しいただきました二川様、それから内田様にお伺いしたいと思いますけれども、お二方とも、内田様の方はアンケート結果の御紹介という形でございましたけれども、18歳よりは20歳の方がいいという御意見であったと思います。

ただ、その理由として、受験と成人式が同じ時期になることが挙げられていましたので、成人式を1月にやるのが前提とされていたのだと思います。その前提自体を考え直して、18歳の1月以外の時期に実施することができるかどうかという点についてどのようにお考えか、教えていただきたいのですけれども、お二方、どちらからでも構いませんので、御発言いただければと思います。

○二川哲男参考人 18歳でやる場合を仮定してということですか。

○法務省民事局 そうですね。18歳の1月ということになりますと、受験シーズンと重なるということで、これはなかなか難しいというのは、よく理解ができるのですけれども、18歳の例えば3月とか5月とか、少し受験なども落ち着いた時期に成人式を実施することは難しいというふうにお考えでしょうか。

○二川哲男参考人 私、美容だけではなく、先ほどお話ししましたように、県内の二つの市の市長さんと話をしたんですが、18歳ではなくて、二十歳での式というのを、お二人の市

長さんも言っていたんですが、それには一つ、先ほども言いましたように、Uターンして、同窓会を兼ねたような形で、式典の後に同窓会が持たれることが多い。そういう場合、市内のホテルであったり、レストランであったりに、それぞれのクラスごと、あるいは同窓生ごとに集まって、にぎやかに楽しくやっている。そういったのも一つ、市町村への経済効果になるだろうということです。

それから、その流れで、町が華やぐといいですか、そういうこともあるでしょうし、それから、東日本大震災、あるいは、個々に大きな自然災害が続いていますけれども、一旦地元を離れた人たちが帰ってきて、それによって、町全体の高揚感といいですか、明るさが戻ってくるというふうな新聞記事なんかも拝見をさせていただいておりますので、18歳の場合に、もしやるとすれば、卒業を前にして、各高等学校などで、18歳は成人なんですよというふうな記念講演をやるとかで済ませて、二十歳は二十歳で、二十歳の式典というふうな形でやっていただくのがベターではないかというふうに考えております。

○**法務省民事局** やはり18歳でやると、そういった経済効果は余り期待できないということでしょうか。

○**二川哲男参考人** ほぼ期待できないということでしょう。

○**法務省民事局** あとは何かありますでしょうか。

○**二川哲男参考人** 生活衛生関係営業というのは、全国で17業種といわれていますけれども、そういった部分にも、私たちの業界は関連してまして、今日のヒアリングに際して、いろいろな生活衛生同業組合の方々の話も伺ってまいりましたけれども、やはり二十歳の式典を支持するという方が圧倒的に多数でありました。

○**全国町村教育長会** 成人式というのは、いろいろな意義があると思います。自覚を高めるだとか、大人としての自覚を持たせるとかという中身になっているんですが、今、経済効果が前面に出て判断をすることは、どうなのかなというような思いがします。

業界の方たちにとって自覚を高めるためには何が必要なのかということについてのお考えを聞かせてほしいなと思います。

○**二川哲男参考人** 私は、決して美容業界だけの話をしているのではなくて、先ほど言いましたように、あるいは全国各地の地方紙などを読ませていただいた上で、二十歳がいいだろうと。そういう新聞記事の中にも、私が発言したような内容が含まれていますということですよね。

今日の資料には入っていませんでしたが、以前、全国の新聞をコピーしたものをお届けいただいて、それは全部目を通していただいた上で、お話をしているわけで、経済効果というのは決して私の話ではなくて、そういった中でのことをお話しさせていただいています。

○**法務省民事局** 市町村教育委員会の方からは何かございますか。

○**全国市町村教育委員会連合会** 今ちょっと話題に出ていました、18歳に引き下げた場合や、日程をどうするかということで、実は2回目した後、各都道府県の事務局にアンケートをお願いしました。その回答の結果、現在の実施は、8割以上が大体成人の日の実施、またその前後に行っていると。成人の日以外、1月にやっているのは大体1割ぐらい、それから、そのほか6%ということですから、8月とか12月に行う。

では、下げた場合どうなるのかということ、結局、今後についてということ聞いていたら、2割が今までどおりの成人の日をやってという。では、それ以外の日ということ、やはり二十

歳と同じような状況。そして、そのほかという1割弱で、やはり、どうしていいか今も検討中ということで、見当が付かないというのが6割以上になっております。

そういうことを、話題になってはいますが、引き下げた場合のよさというのは、やはり自覚とか、あと選挙権と同じになり、意思決定権が与えられ、成人としての意義を高めることができる。

今ちょっと、経済的負担の話が出ていますが、やはりそれは、よさの中に実は挙げられていて、着物、スーツ以外での参加者が増えて、保護者の負担が軽減されるということ。要するに、制服で参加することが金銭的負担の軽減になるということで挙げられております。

ただ、では逆に、二十歳の場合の方のよさという、やはり日本の伝統文化、そういう着物を着せてやることにも、やはりそういう意義があるのではないかと、実行委員会制度ができるとか、18歳では受験期かな、抱えていて、なかなか難しいよなということがやはり出されております。

アンケート調査結果を見ると、最終的には、二十歳ということを決めたところが、2件ありました。それ以外のところは、動向を見て、また県と国のそういう動きを見て決めたいということです。中には、やはり課題が想定されるので、市民の皆さんが混乱しないように配慮して、これから検討していきたいということで、やはり、自分たちだけではなくて、周りの影響も大きいからどうしても近隣の市町村の動きを考えて、決めたいということです。

関係者のアンケートにもあるように、女の子はやはり着たい、着る機会なかなかないし、この機会に日本の文化と伝統をやはり大事にしていきたいという意味があるので、やはり経済的なこと、教育の関係からいくと、純粋に考えたいところですが、それを取り巻く親のやはり経済力とか、そういうものも加味して考えることもあるのです。ところで、私たちが成人式の日を迎えたのを思い出すと、なるべく私服、私服というので、華美を避けるような時期もありました。その後、落ち着いてきて今の成人式のように、やはりこの機会に着せてあげたいとか、それなりの服装で出してあげたいとか、そういうような成人式になったのでは、ないでしょうか。

やはり、日本の文化と伝統をいかに維持していくかということも必要かと思えます。経済を中心に考えてしまうのも心配だけれども、そういうものを抜いても考えるというのは、なかなか難しいのではないかなという、これもアンケートの集計から感じております。

○法務省民事局 ありがとうございます。

内田様の方は何かございましょうか。

○内田志づ子参考人 18歳で、どうしても成人式をやるとしたら、3月、卒業式終わった後しかないと思います。

夏休みとか8月とか、そういう機会はあるんですけども、まだ高校生でして、18歳に達していない生徒もいますし、それから高校生活がありますので、まだ勉強も部活も、いろいろな行事も学校でやっている、学校、特に夏辺りは、盛んに行事等やっている最中です。そのところで成人式をやるとするのは考えられません。

それから、子供たちが、同窓会的な意味で成人式を捉えているというのは、これはほとんど中学の同窓会です。成人式では、その後、同窓会をやってくれる自治体が多いんですが、それは全部中学単位です。なぜかという、中学は地元の中学校ですね。地元のことを考える機会となりますと、高校は通学がかなり広域化しておりますし、高校の形態も多様で

すので、高校単位で集まるということは、余り成人式ではないです。

そういう意味で、18歳、高校生のときにやるというのは、卒業した中学への思いがまだいくような段階ではありませんし、特に高校生の時期は、地方によって違いますけれども、地域として祝ってもらうという意識はありませんので、卒業してから以外は無理ではないかなと思います。

○法務省民事局 ありがとうございます。

少し全体の認識を共有させていただきたいのですが、今、内田様がおっしゃった18歳でやるというのは、その年度に18歳になるということですよね。つまり、高校3年生の3月とか、3月だったら一番最後ですけれども、例えば、別の時期だとすると、前倒しをして夏にやるとかということですよね。

○内田志づ子参考人 そうですね。

○法務省民事局 逆に、そうではなくて、みんなが18歳になった年にやるという、例えば5月というのも、先ほどの内田様から頂いたアンケートの中にあっただかと思うのですが、そこで念頭に置かれているのは、高校3年生の5月というよりは卒業後の5月かと思いますが、いかがでしょうか。

○内田志づ子参考人 卒業後ですね。

○法務省民事局 卒業後ということですから、19歳になる年度の5月ということですよね。

○内田志づ子参考人 はい。

○法務省民事局 18歳で実施するというふうに、何げなく我々も口にしておりますけれども、例えば3月の場合はその年度中に18歳になる年度が念頭に置かれているんでしょうけれども、4月、5月あるいは8月などというのは、19歳になる年度ということもあり得るので、そういう可能性も一応、念頭には置いておいた方がいいかなと思います。

○内田志づ子参考人 そうですね。19歳ということは頭にありませんでした。

○法務省民事局 その上で、さきほど内田様がおっしゃったのは、19歳になる年度になってすぐというのは、まだ同窓会みたいな形でとか、あるいは、自分が育った地域とかいうものに対する思いを持つには、まだ早いということでしょうか。

○内田志づ子参考人 まだ早いです。まだ忙しい時期です。

○法務省民事局 新しい生活に入ったばかりで、どちらかというとそれに適応することに意識が集中していて、今までのことを振り返ってみようとか、今までの育てていただいた周囲に感謝しようとか、そういう気持ちになるには少し早いということですね。

○内田志づ子参考人 はい。

○法務省民事局 先ほど、市町村教育委員会連合会の方から、アンケートで、実行委員会方式が難しいのではないかというような御指摘がございましたが、それは時期的な問題でしょうか。あるいは、年齢的な問題で、高校を出たばかりの18歳ではまだ難しいということでしょうか。

○全国市町村教育委員会連合会 要するに、受験の真っ只中にあるときに集められると参加が難しい。やはり、やり方を変えなくてはならないかと思います。

○法務省民事局 確かに、それも先ほどの問題と同様で、18歳の何月にやるか、あるいは19歳になる年度にやるのかにもよってくるかと思いますが、確かに、例えば18歳になる年度の最後の3月にやるというときに、実行委員会をそれに先立ってやろうとする

と、受験にも非常に大きな影響があると思いますので、それはなかなか難しいのだろうというふうに思います。

○**全国市町村教育委員会連合会** 1月に今までどおりやるとして、実行委員会は難しいだろうと、そういうことですね。

○**法務省民事局** 実行委員会方式というものは、これは教育的な観点でいえば、やはり参加者というか当事者、あるいは若者の自主性・自立性を尊重するという意味で、積極的に評価されておりますか。これは、組織としてということではなくて、個人的な御意見で結構ですが。

○**全国市町村教育委員会連合会** 主催者側と、大体共同でやっているケースが多いんですね。実行委員会だけでやるケース、市の、例えば生涯教育課とか社協とか、市長部局と一緒にやってやることがあります。だから、運営上任せられるところは実行委員が、全体は主催者、市の方が行い、部分的に任せる形が想定される。

○**法務省民事局** それはやはり、教育的な観点からも、大人が全部お膳立てするよりも、当事者である若い方々に、任せられるところは任せていくということが望ましいというふうにお考えでしょうか。

○**全国市町村教育委員会連合会** そうですね。

一時、荒れる成人式があったときに、どうやって、若者を取り入れて、そうすると、そのまま主催者側と一緒にやっているということ、変なことをやる人もいなくなる。自分たちの仲間がやっているというところで、やはり、一緒にやっているんだという意識になってきたということで、そういう形が現実で来て良い点だと思います。

○**法務省民事局** 受験のシーズンに重なるという时期的なことを離れて、能力的な面でいうと、18歳の高校生に、そういう実行委員会、あるいは高校を出たばかりの人に実行委員会を任せるといったことが現実的か、という点はどのようにお考えになっているのでしょうか。

○**全国市町村教育委員会連合会** 全て任せているのではなくて、一部分を、ではそこは実行委員の方々にお願いするということで、18歳でも20歳でも、それはできると思います。時期によっては、その形をとるのは無理だと思うんですね。

○**全国市町村教育委員会連合会** 18歳で実行委員ということに関しては、教育的に考えてみたときには、18歳でも十分できるのではないかというような思いを私はしています。

ですから、子供たちに自覚を与えてやらせるということは、可能だということをもっと前提に考えた方がいいかなというふうに思っています。

ただ、地方はやはり帰ってきてほしいんです。1回出た者が帰ってきてもらって、そしてそこで、地元でもって成人式をさせたいという希望が多いんです。

ですから、一旦出た子供が帰ってきて、地元でもって楽しむ、地元でもってお祝いするという中身を考えている自治体が多いんです。

ですから、結論的に言いますと、二十歳の成人式を今までどおりやりたいねという話は、たくさん出てきてはおります。

ただ、二十歳でもやはり、実行委員会形式でやるということについては、まだまだ、ちょっと戸惑いが、教育長たちにはあります。迷いは迷っているけれども、教育長さんたちは、二十歳の成人式を望んでいる人が多いのではないかというふうに考えています。

○**法務省民事局** 今の御発言についてですが、地元で成人式を実施するというのでいえば、

18歳でやった方が、まだみんな出ていく前なので、やりやすいのではないかという気がするのですが、いかがでしょうか。

○**全国町村教育長会** 一度外に出た者が帰ってくることによって、新たな情報等が入ってくるわけです。

○**法務省民事局** 成人式に、そういうメリットというか、そういう意義もあると。

○**全国町村教育長会** はい。

○**法務省民事局** 若い方々の自覚とか、若い方々自身のためということもあるけれども、一度外に出て視野を広げた方が地元に戻ってくることで……。

○**全国町村教育長会** はい。

○**法務省民事局** なるほど。そのことによって、新しいものが地域に入ってくると。そのためには、二十歳の方がいいのではないかと。

ほかに、今まで出たのとは別の、新しい観点でも結構ですが、なにかございますか。

○**文部科学省** 今日はありがとうございました。

お二方とも、意義については、大人としての自覚とか、そういうところを重視されていて、二川さんの御回答ですと、18歳で成年になるけれども、事実上大人として扱われるのは二十歳だというお考えの下、成人式も二十歳が良いということだと思わなければならないけれども、やはり、成年年齢引下げの施行前であるためにまだ18歳が大人というところが、定着していないというようなイメージをお持ちなのかというのを二川さんにお聞きしたいと思います。内田さんにお聞きしたいのは、多分アンケートからは見えてこないもので、個人的な御見解で結構なのですが、成人式には人生の節目というか、大人になった自覚という意味があるとしつつも、結論としては二十歳の方がいいというのは、やはり現実的なところで、対象年齢は二十歳がよいというふうな考えということによろしいですか。

○**内田志づ子参考人** はい。

18歳で成人。

ちょっと時間がかかるかなと、家庭教育の中身を変えていく、18歳で成熟したなという領域にまだいたっていない。

○**文部科学省** 結論として、成人式を二十歳で実施するのがよいというのは、なかなか大人になれないからという理由なのか、それとも、ここに書いているような、いろいろなデメリットとか、現実的なところを考えて二十歳ということなののでしょうか。

○**内田志づ子参考人** はい。というか、まだ成年年齢の引下げというのが、保護者にもぴんときていないというか。何がメリットなんだろうという戸惑いもあります。

○**二川哲男参考人** OECDの35か国中32か国が18歳成人だから、日本も18歳にしましょうというのがベースにあったのではないかというふうな話を聞いておりますけれども、私ども、先ほど言いましたように、生活衛生同業組合連合会がありまして、16、17の業種の代表者が話し合うような機会もあるんですけれども、あの18歳というのはどこからきたのかねというふうな話がよくされている。そして、それぞれの経営者の団体ですから、ざっくばらんな意見交換をしますけれども、18歳は子供だよねと、一言に言われてしまいますよね。

2022年までの教育期間も、ある程度はあるわけですが、果たしてその教育というものは、どこまで突っ込んだ内容になるのかなというふうなものを考えますと、202

2年までは、選挙権はあるけれども、本当に一人前の大人として認めているかという点、まだまだそこまではいっていないような感じがいたします。

それで、提出した書類の方に、そういうふうに書かせていただいたわけなんですけれども、今後、2022年4月までにどのような教育がされるのか、期待をしたいというふうに思います。

ただ、全体として、これまでいろいろなアンケート、あるいは今日のご意見に見られるように、二十歳は二十歳の式典として実施していただければよいというふうに考えています。

○法務省民事局 ほかに何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日の議事としては、これまでとさせていただきます。

二川様、内田様、お忙しい中を本日お越しくございまして、どうもありがとうございます。

次回以降ですけれども、法務省と内閣府さん、文科省さんと相談しつつ、今後のことをまた決めていきたいというふうに思います。次回期日は未定ですけれども、引き続き御協力いただければというふうに思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日の議事は以上とさせていただきます。どうもお忙しい中、どうもありがとうございました。

—了—